

留学体験レポート

国際学部 2年 中国語選択 21014081 永井 琢也

私は 2015 年 8 月 30 から、2016 年 1 月 9 日までの約 4 ヶ月間中国の北京師範大学へ行った。北京で生活した約 4 カ月間で、様々な国の人とふれあってきました。国や地域によって、性格は全く違う。異なった性格の人と同じ時間を過ごすことは、とてもいい刺激になった。

私は、留学生でチームを組んで、サッカーの試合に出場した。何回か全体で練習をしたが、衝撃の連続であった。ある人は決まった時間よりも遅く来て、またある人は、人を倒しても誤りもしなかった。試合当日には、ユニホームを持ってこない人もいた。だが、悪い面ばかりではない。自分が思った事をすぐに発言していた。何よりもみんながフレンドリーなので、とても馴染みやすかった。

授業中は、先生が文法や単語の説明をしているときに、少しでもわからないところがあれば、すぐに質問して、理解できるまで話をしていた。休み時間になったら、いろいろの国の人と話しかけてくれたので、話しやすかった。だが、授業開始のチャイムが鳴っても、来ない人や、課題をやっていない人も少なくはなかった。授業を欠席している人も多く、出席日数が足りず、期末試験を受けることができなかった人も何人かいた。

私のルームメイトはアメリカ人であった。私と彼の生活習慣は全然違った。例えば、授業がある日、私は早く起きて、朝食を食べ、授業の支度をしているのに、彼は時間ギリギリまで寝ている。私は夜シャワーを浴びるが、彼は朝シャワーを浴びていた。夜寝るときに部屋の電気を消しても、彼は寝ずにパソコンをいじっていた。だが、生活で合わないところがあったら、お互いで話し合って、改善しあった。なので、もめることはなかった。

私は、留学を通し、中国語以外にも多くのことを学んだ。日本人の大体は時間を守るが、よその国の人には意外と時間にルーズである。授業中は外国の人は、日本人よりも質問などの発言が多く、積極的であった。そしてとても話しかけてきてくれた。おそらく日本人は真面目というイメージがあるだろう。しかし、時にはこのような性格が私たちに苦しめる。なので、私は日本人の良い部分はこれからも継続し、伸ばし続けていき、足りない部分や、色々な国の人の良いと思った事は見習っていきたいと考える。そして良い意味で日本人らしくない人を目指したい。これらの経験を生かして、今後の生活を有意義なものにしていきたい。